

2021年度第3回委員会議事録

1. 日 時：2021年12月3日(水) 17:30～18:30
2. 場 所：日本医療検査科学会事務所 と On-line[Zoom]会議
3. 出席者(敬称略)：康委員長、工藤委員、大川委員、三浦委員、橋口委員、柳原委員、田畑委員、萩原副委員長
欠席者(敬称略)：岡田委員、菊池オブザーバー

4. 配布資料：

- ・2022年度活動計画(考)／2021-12-03 三浦委員

5. 議事

1) 審議事項

(1) 2022年度の活動について

- ・本年度の NCGM の医療技術等国際展開推進事業への申請については、準備態勢が整わないため見送った経緯がある。2022年度事業への申請について検討したいが、本年度の募集要領では年明けの1月18日～2月18日となっており2カ月ほどの猶予があるが、準備状況を考えて NCGM 側で何か内部情報等があれば議論をしたい。(康委員長)
- ・未だ特段の情報はない。(三浦委員)

1)三浦委員から配布資料「2022年度活動計画(考)」に基づいて提案・説明があった。

①. JCLS 年次大会／LACLaS Expo の国際化

- ・本年度の継続に加えて、年明けに開催される JACLaS 国際化推進委員会との会議で協議する。

②. 東南アジア諸国の関連学会との連携活動に関する提案

- ・東南アジア情勢について情報収集してから3年が経過しているため、現地調査の必要がある。
- ・来年、JACLaS が東南アジアの学会で、日本側製品のアピールのために展示ブースを出展する可能性がある。出展ブースでの学会広報活動を検討する。また、連携すべき海外の学会等を調査し、それら学会との連携活動について意見交換を行う。
- ・活動としては、3ヵ年ほどの中期的な計画を検討する。
- ・ミャンマーの事例を基に、リモート教育プログラムの提供国を拡大し展開する。

③. NCGM 臨床研究センター インターナショナルトライアル部(NCGM DIT)との連携に関する提案

- ・NCGM DIT の活動は、アジア健康構想政策活動の一環として、海外で日本の製品を使った臨床研究や試薬の促進支援に関わることであれば予算化が期待できる。
- ・学会年次大会で、国際シンポジウム共催や NCGM DIT が主催する教育プログラムを学会のセッションに組み入れる。それらに加えて、国際機関を通じた「東南アジア諸国における臨床検査の普及および適正運用の推進事業」の展開を検討する。
- ・以下の状況から、臨床検査の普及および適正運用を推進活動とする。

生活水準の向上や平均寿命の伸長により、生活習慣病の罹患者数や透析患者数、癌による死亡者数が増加傾向にある。導入されている検査項目数は少ない。糖尿病患者に対して必要な検査が適切に運用されていない。

- ・産官学連携を推進し、予算は JACLaS や対象製品メーカーに加え NCGM DIT からの資金支援方法も検討する。
- ・事業の連携者である当会・国際交流委員会や関連組織の協力の下、本事業の協力運営を推進する。
- ・対象疾患領域として、①糖尿病領域、②感染症領域、③ウイルス肝炎領域の3つを候補とする。

2) 上記活動案に対して各委員からの意見

- ・極めて具体的で意味深い活動であり異論なし。
- ・東南アジアは、薬剤耐性菌が問題となっていること、検査がまだまだ導入されていない課題があり、本学会が企業と連携して入っていける可能性が高く、プロジェクトとして大変良いと考える。
- ・対象疾患領域に HIV も加えて良いと考える。
- ・糖尿病に加えて高脂血症や脂質異常症関連は問題になっていないか？→東南アジア地域では生活習慣病が問題となっており高脂血症もターゲットに加えても良いのでは。
- ・国際シンポジウムで海外の著名な先生方に講演いただいた点は良かったが、当日の聴取者の殆どが委員会メンバーでありオンデマンド配信の視聴者も少なかった。学会会員や海外の方に如何にして見てもらうか、来年度のシンポジウム企画では、その周知についても課題とする。
- ・各国とも WHO やワールドバンクと共に5年のヘルストラテジーを策定している。今回提案の健康課題は既にプログラムとして動いており、その実施団体とコミュニケーション/整合性をとり方針が拡散してしまわないよう配慮が必要。生活習慣病では、ターゲットとなる国のナショナルプログラムを確認してアプローチをするのが良いと考える。
- ・国際感染症センターの AMR プロジェクトでシステムを構築しており、早急な課題として COVID-19 のシステム化を進めている。2~3年後に海外展開を見越しており、本委員会と情報連携していきたい。
- ・活動計画は単年で考えるのではなく、本案のように中長期的な計画で進めることに賛同。また新型コロナの感染状況は変異株の出現等により大きく変動するため、我々の活動計画も情勢に柔軟に対応できることを念頭に継続した活動を着実に進める。
- ・前年度のミャンマーへの活動を東南アジアエリアへ展開できるよう、現地調査を踏まえて継続できると良い。

2) 次年度の活動を着実に進められるよう引き続き検討し、もう少し具体化した時点で情報共有することとした。

(2) 特別賛助会員への活動報告会の開催について

- ・本来、毎年報告会をする必要があるが、コロナ禍のため昨年度は開催を見送っており、本年度も計画通りの活動が叶っていないが、報告会の開催についてディスカッションをお願いしたい。
- ・昨年度と本年度、特別賛助会費を納めてくれた7社に対して報告会を開催する必要がある。
- ・委員長と副委員長とで具体案を検討し、改めて委員会メンバーに意見を伺うこととした。

- ・開催時期は、2月初旬で各企業と日程の調整し、開催形式はオンラインで開催することとした。

(3) その他

- ・特に発言はなかった。

本委員会も委員数が充実し各分野の専門性の高いメンバーが揃った。COVID-19 の状況にもよるが、来年度は本格的な活動ができることに期待したい。との委員長コメントで閉会とした。

以上

(記録：萩原)